

平成26年のサマーエンジェルの核割れ果の発生について

平成26年7月7日
果樹技術普及センター

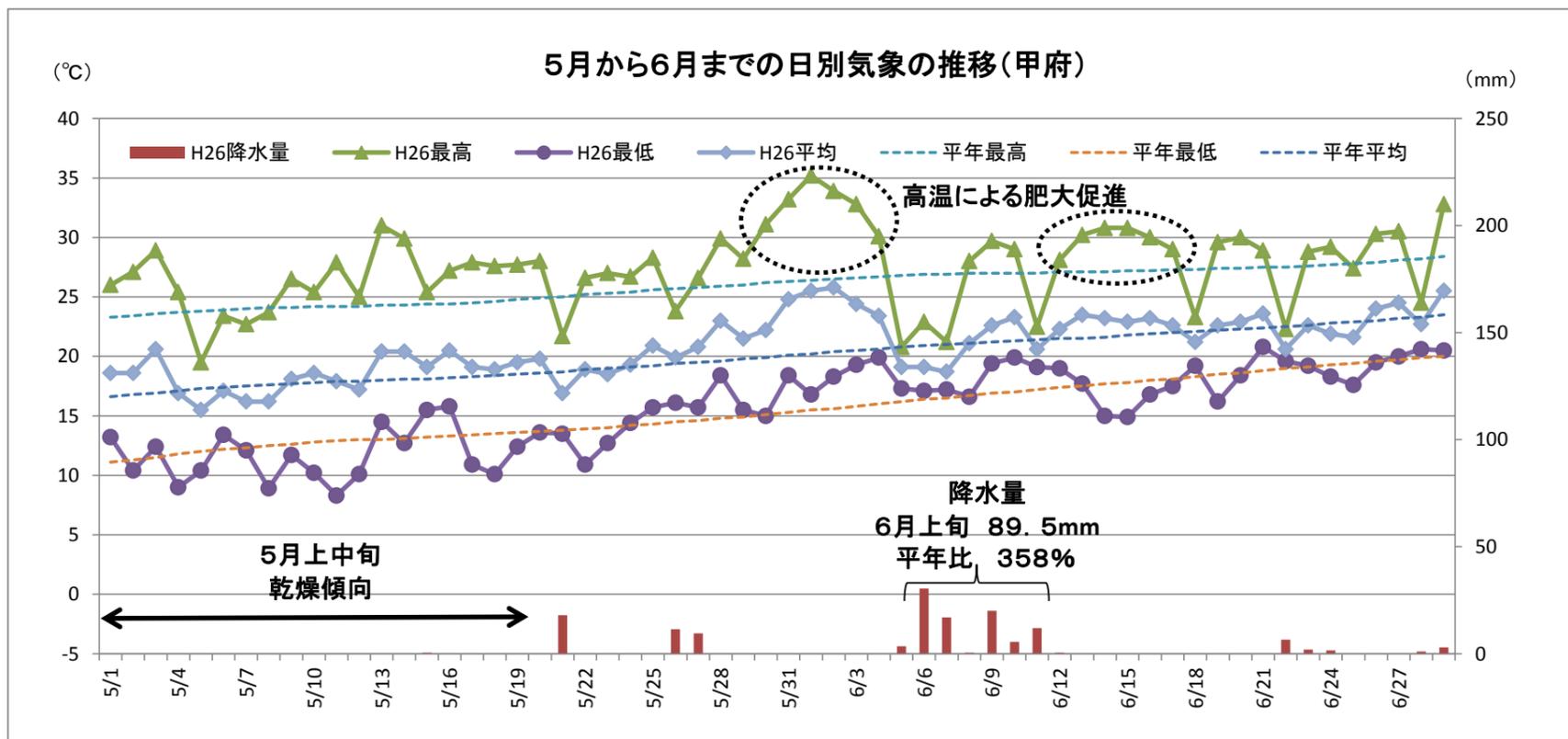
サマーエンジェルについて、核割れ果や変形果の発生が見られています。
摘果や収穫に向け、以下の点に注意して管理を行ってください。



核割れ果



変形果



◆考えられる原因

(1) 核割れ果

5月上中旬が乾燥傾向で推移したが、5月下旬の高温により特に縦方向への果実肥大が促進された。その後、硬核期に多量の降雨（6月上旬：89.5mm、平年比 358%）があり、また平年より高温傾向で経過したことで急激な果実肥大が起こり、核割れを助長したものと考えられる。

※「サマーエンジェル」は「貴陽」や「サマービュート」に次ぐ大玉品種で、果実重は150～170gになり、硬核期頃の急激な肥大は、核割れ果の発生を招くことがある。

(2) 変形果

果実が急激に肥大し、核割れや果頂部に空洞が発生したため、果頂部の突出した変形果となったものと考えられる。

◆核割れ果・変形果への対応

- ①発生が軽微で、見直し摘果で対応が可能な場合は、変形果を中心に摘果を実施する。
- ②発生が著しい場合は、残った果実の核割れの更なる助長や、枝の徒長などによる来年への影響が心配されるため、急激な摘果は行わず、障害による過熟果や腐敗果（灰星病果）などの摘果を順次実施する。
また、果実腐敗病の防除を徹底する。
- ③収穫にあたっては、核割れ等の核に障害のある果実は、果頂部の軟化した過熟果となりやすいため注意する。
正常果が明るい着色であるのに対し、果頂部の軟化が進んだ果実はその部分の着色が進むので、濃い着色となり識別できるため、選果やパック詰めの際でも判別に努める。
- ④台風や長雨による過剰な水分供給は、変形果等の発生を助長と思われるため、大雨が予想される場合は、水路の点検や明きょ排水を設け、圃場の排水対策に努める。